

(社) 日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会
第 23 回 外的事象 PRA 分科会 議事録

日 時： 2021 年 7 月 27 日(火) 10:00~12:00

場 所： WebEx 会議

配布資料

RK6SC 23-1 第 20 回外的事象 PRA 分科会議事録(案)
RK6SC 23-2-1 人事について
RK6SC 23-2-2 外的事象 PRA 委員名簿 2021/7/27 版
RK6SC 23-3 地震 PRA 標準 中間報告案
RK6SC 23-4 外部ハザード選定標準の改定について
RK6SC 23-5 標準階層化と基準指針の定義の整理について

2021 年度 倫理教育について(概要紹介)

議題：

1. 定足数確認, 資料確認
2. 前回議事録の確認
3. 人事関連
4. 地震 PRA 標準 中間報告案
5. 「外部ハザードのリスク評価方法選定標準」の改定について
6. 標準階層化と基準指針の定義の整理について (報告)
7. その他、次回日程

● 倫理教育の概要紹介

出席委員(18名)： 糸井主査(東大)、桐本幹事(電中研)、安達委員(テプシス)、井上委員(東芝 ESS)、内山委員(大成建設)、織田委員(日立 GE)、国政委員候補(関電)、栗田委員(東電設計)、小林委員(中部電)、齋藤委員候補(東電 HD)、砂川委員(北海道電)、中島委員(電中研)、西田委員(JAEA)、橋本委員(電中研)、泥谷委員(NEL)、美原委員(鹿島)、山野委員(JAEA)、吉田委員(大林組)、

退任委員(2名)： 佐々木委員(関電)、綿引委員(東電 HD)

欠席委員(1名)： 田中委員(MHI)、

出席常時参加者(3名)： 倉本(NEL)、高橋(鹿島)、根岸(原電エンジニアリング)、

(解除) 常時参加者(1名)： 細川(関電)

オブザーバー： 坂東(東電 HD)、藤岡(日立 GE)

議事内容

(1) 定足数の確認

会議に先立ち、委員 19 名中 18 名が出席しており、定足数を満たしていることが確認された。また、資料確認が行われた。

(2) 前回議事録の確認

桐本幹事から、前回議事録の内容について説明がなされ、承認された。

(3) 人事について

佐々木委員、綿引委員、細川常時参加者の登録解除が報告された。新任委員として、国政委員、齋藤委員が紹介され、承認された。また最新の委員名簿の報告が行われた。地震 PRA 作業会、断層変位 PRA 作業会の人事が報告された。地震 PRA については幹事が成宮氏から根岸委員及び齋藤委員の 2 名体制になることが報告された。

(4) 地震 PRA 標準の中間報告について

成宮氏（地震 PRA 作業会前幹事）、齋藤氏（地震 PRA 作業会幹事）より、地震 PRA 標準の 2 回めの中間報告について説明が行われた。30 日の意見募集を行うこととなった。

以下の議論があった。

- ・標準委員会にこの中間報告を上げる前に分科会やリスク専門部会のコメントに対応する予定であるため、標準委員会は 12 月に報告を考えている。
- ・大きな構成が変わっていることや、フラジリティの評価方法や箇条 10-12 の整合性の確認などを中心として見ていただきたい。
- ・IAEA の SSG を見ると地震動と断層変位の記載があり、国際的にも両方が扱われている。本標準は断層変位 PRA 標準と分けているが、この関係性を解説に記載する必要はないか。
- ・断層変位作業会でも、地震の揺れによる地盤変状と断層運動によるデスロケーションをどう区別するかについて議論があった。解説に記載することが良いと考える。
- ・複合的なものについてはどこに書くかという点については、標準の解説だとずっと残ってしまうので、関係性についての技術レポートを分科会で作成し Web 掲載すると良いかもしれない。
- ・複数の標準の相関性がわかるような 1 枚もののマトリクスやマップを示す図を検討するとよいということか。PRA 品質確保分科会で共通事項標準の検討をする際に複数のリスク評価標準全体にまたがっていく関係性を議論していた。外的事象に絞ってこの外的事象分科会で議論するのか、全体として品質確保分科会で議論すべきか悩ましい。
- ・次の議題の外部ハザードの選定標準に組み合わせとして記載できる内容かもしれない。

・各標準が存在するとしてガイダンスを作るということと、品質確保標準で広く上位標準としてマトリクスを作るというのは分けて進めていってもいいのではないか。

(5) 「外部ハザードのリスク評価方法選定標準」の改定作業について

泥谷委員より外部ハザードのリスク評価方法選定基準及び手引きの策定の経緯の説明と改定の方向性についての説明が行われた。次回、これらの状況を基に改定趣意書を作成し、泥谷委員を中心に役割分担して素案の検討などを行っていくこととなった。また、各委員からは新知見についての情報があれば提供することとなった。

以下の議論があった。

・策定期間はいつ頃を想定するか？

・5年が既に経っているので、改定期間にはなっている。来年度中に発行まで行ければというスケジュール。

・IAEAで重畳事象のタスクが立ち上がっている。External Events Safety Section (EESS)で2020年中にTech.Doc.がまとめられる予定なので、それを待って参考にするとよいのではないか。来年の10月までにまとめられる方向で進んでいる。

・IAEAの検討状況を現状でも開示できる情報はるか？技術レポートと標準を分けて発行し、その内容を技術レポートに反映しても良いかもしれない。標準は階層化も検討にして改定をする必要がある。標準改定は進めながら、IAEAの最新の状況等を並行してフォローしていくことが良いのではないか。発行時期についても2023年度で柔軟に対応を考える。
→ IAEAの福島氏にEESSの活動の紹介についての講演をお願いする方向で調整することとなった。

・この標準は1F事故が起こり、地震津波以外の外的事象についても頑健な対策やPRAの実施など要求がエスカレートしていく状況があったため、冷静に分類をするという意図で作られたものである。全体のネットワークの中でどのような位置づけになるかによって、内容がガラッと変わってもよいのではないかと考える。日本だからこその外的事象への考え方をよく議論することが良い。

・外的事象についてはむしろ日本が先導し、IAEAに持っていくという方向で進めるぐらいでも良いのでは。

(6) 標準階層化と基準指針の定義の整理について

桐本幹事より標準階層化と基準指針の定義の整理について議論状況の説明が行われた。

(7) 倫理教育について

桐本幹事より標準委員会の倫理教育資料について説明が行われた。次回に意見交換を行うこととした。

(8) その他、次回日程

今回は 10/29 の午後で調整することとした。

以上